

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャレンジャー		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和6年 12月 27日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日 ～ 令和6年 12月 27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・活動プログラムの立案をチームで行い、固定化しないよう工夫している。	・5領域を意識しながら、バランスよく1か月の活動内容を話し合い決めている。 ・四季を意識した活動を取り入れている。	・活動を行う目的、最終目標等具体的に話し合い活動に取り組んでいく。 ・正職員、パート職員で話し合い、活動の流れや役割分担を詳細に決める。
2	・お子様の支援を、学校や相談支援事業所、病院等外部と連携しながら行っている。一人一人の支援をチームで話し合い、丁寧に行っている。	・お迎え時に担任の先生や保護者と話をすることで、デイスーパービス以外での一面も支援の参考になっている。 ・個別支援計画書の作成時以外にも保護者からの依頼があれば相談に乗ったり学校や相談支援事業所と連携を取りながら、お子様一人一人に丁寧に向きあっている。	・地域連携の取り組みをこれからも広げていく為、日頃より学校や関係機関への積極的な声掛けを主体的に行っていく。 ・保護者が話しやすい雰囲気を作っていく。
3	・保護者会やペアレントトレーニング、子育て相談等に積極的に取り組んでいる。	・本年度より保護者会を年2回開催している。又、保護者支援としてペアレントプログラムを開催。	・保護者会の内容についてアンケートを取ったり、保護者同士や兄弟が交流できる機会を設ける。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・昔ながらの建築構造の為、段差が多い。 ・建物内の部屋が、構造化しにくい、個室化しにくい。	・昔ながらの和風建築の為、障子で分けられており、簡単に出入りできるため、静かに遊びたい児童と身体を動かしたい児童が入り混じってしまい、活動に支障が起こりやすい。	・個室化できる部屋を増やす。 ・公共機関を利用したり、外出グループを作る等、グループ活動を行うことで施設内の人数を調整していく。
2	・放課後児童クラブや児童館との交流、地域の他の子どもとの交流の機会が少ない。	・ボランティアや実習生の受け入れ、児童館への外出等積極的に行っているが、同学年との地域の児童との交流の機会、きっかけの作り方がわからない。	・地域の学校のお子様遊びに来れるようなイベントの企画を考える。 ・高校生や大学生のボランティアを募集する。
3	・安全計画や防災マニュアルの公表。	・事業所の職員や子ども達のみで訓練や研修を行っており、保護者への報告や公表の機会が少ない。	・避難訓練、防災訓練等行っている風景の写真を保護者にお見せたり、マニュアルを玄関に設置する等。